

型わく支保工 概要書	型わく数量	1階スラブA=157m <sup>2</sup> 階段部 A=30m <sup>2</sup>	コンクリート 数量	躯体数量V=390m <sup>3</sup> 1階スラブV=48m <sup>3</sup>
	支柱の長さ	一般	梁部 2.868m、3.408m スラブ部 3.908m	最高 3.908m
	工期	組立	平成15年5月10日～平成15年5月15日	
		解体	平成15年5月15日～平成15年5月20日	
支保工の種類	ア,パイプサポート イ,ウイングサポート ウ,単管 エ,組立鋼柱 オ,わく組 カ,木材支柱 キ,その他( )			
材質 寸法	せき板	合板ベニヤ板 (t=12mm)	支柱	パイプサポート (鋼製)
	根太	鋼管バタ (60mm×60mm)	水平つなぎ	単管 (48.6)
	大引き	鋼管バタ (60mm×60mm)	根がらみ	単管 (48.6)
梁式 (ビーム) 支保工の有無 有・無 形式: スパン: m				
設計荷重・許容荷重	各部の構造・組立及び補強内容			別添図面
1, 支柱式支保工 (1) 垂直荷重 鉄筋コンクリート重量 単位体積重量 (23.1) KN/m <sup>3</sup> 支保工 (0.2) KN/m <sup>2</sup> 設計 設計図 受持面積Max 支保工1本・組当り (6.228) KN メーカー仕様書等による許容支持力 支保工1本・1組当り (7.50) KN (6.228) < (7.50) ・OK (2) 水平荷重 ・鋼管わくを用いる場合 T=設計 = 0.25 ・ = 許容 単管又はチエ (0.35) KN (0.28) < (0.35) ・OK	1 脚部	滑動防止、 根がらみ (2方向) 単管 (48.6) クランプ (直交・身在)	沈下防止 敷板・敷角 (なし) コンクリート上 (土間コン直置き)	No. 型枠計画 図
	上端	滑動防止 根太と大引き 大引きと	取付方法 (差し込み)	No. 型枠計画 図
	部	緊結材 サポート 斜材	(在)	No. 型枠計画 図
	水平つなぎ	設置 LC-6 単管	(自在)	No. 型枠計画 図
	5 水平荷重 補強材	設置方法 単管 (48.6) (0.6) にクランプで締め付け クランプ (直交・自在)		No. 型枠計画 図
	6 その他 必要により 補強	(イ) 開口部・ダメ穴上の組立方法 (ロ) 段上組立の措置 (支柱間の敷板、敷角の緊結固定) (ハ) 曲面型枠における支柱の控え、浮き上り防止		

<p>2, 梁式支保工  (軽量ビーム、ペコビーム)  (支柱式支保工に準ずる)  (1) 垂直荷重  鉄筋コンクリート重量  単位体積重量 (KN / m<sup>3</sup>) × 厚さ (Dm)  ( ) KN / m<sup>2</sup>  支保工  ( )  衝  設計  ビームス  メーカーカタログの許容呵力  M = KN · m<sup>2</sup>  これよりビームピッチを算出する。  ビームヒッチは ( ) m  M = WL<sup>2</sup> / 8 = x x<sup>2</sup> / 8  よって  ビームピッチ M × 8 / x<sup>2</sup></p>	<p>今回は梁式支保工 (ビーム) の使用はありません。</p>
<p>3, 水平力の検討  鋼管柱を支柱として用いる場合、  支保工の上端に設計荷重の2.5%  に相当する水平力の荷重が作用し  ても安全な構造    水平力材許容応力 &gt; 水平応力 · OK    鋼管柱以外のものを支柱として用  いる場合、支保工の上端に設計荷  重の5%に相当する水平方向の荷  重が作用しても安全な構造  水平力材許容応力 &gt; 水平応力 · OK</p>	<p>(安衛則242条8号の措置が講せられるよう組立図にしめされているものは、  左の検討事項は済みとして取り扱ってもよい)</p>

